

令和元（平成31）年度学校評価（慶應義塾高等学校）

本校の教育理念	学問の修得に基づいた「独立自尊」の精神を育て、気品と智徳を備えた生徒を育成することを目標とする。
本校の特色	本校は、創立者福澤諭吉の精神に基づき、小学校から大学に至る一貫教育において、中等教育の一画を担うものである。従って、在校生が慶應義塾大学へ進学することを前提として教育方針は定められる。また、本校は、大学と隣接しており、カリキュラムあるいはクラブ活動などにおいて、大学との密接な連携がなされる。一貫教育校として、大学そして小・中学校との連携は学校教育の全ての面に関わるもので、今回の学校評価においては、特別の項目として取り上げてはいないが、個々の項目にその要素が含まれる。
学校評価の経緯と今年度の評価対象	本校では、平成20年9月に初めて学校評価委員会を設置した。今年度は必修科目・卒業研究について点検・評価を行う。達成度については担当者判断、または生徒によるアンケートを実施し、A～D段階で表示する。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
教育活動					
必修科目	国語 論理的な思考力が培われるよう、読解および表現活動を中心に授業展開を図る。古典を学ぶ現代的な意義を体得するための実践に引き続き取り組む。	常に論拠を明確にすることを意識させながら指導する。幅広い時代の文章を取り上げ、歴史の中に生きる自身のあり方を実感させる。	論理的思考の養成については、具体的な方策に基づき、ひととおりの成果を上げることができた。	B	古典の体得には、より想像力が求められる。その低下が指摘される社会状況を見据え、想像を導く言葉の力に気づかせる。
	地理歴史 日本および世界の成り立ちや各地域の特色を学ぶことで、社会的な見方・考え方を深め、基本的知識や論理的思考力を養う。	資料や映像などを効果的に活用し、興味関心を高めながら、幅広い知識を習得させ、深い理解を促す。	地理的・歴史的事象やその関係性を概ね学ばせることができた。また、論理的思考力を一定程度養うことができた。	B	授業時間が潤沢にないため、授業で扱えない分野も存在する。今後とも、資料や教材の精選に努め、多角的な視野から授業を展開できるようにしたい。
	公民 現代の国内外の諸問題をテーマに、社会の現状や背景にあるしくみを学ぶことで、利害が対立する現代社会の本質を読み解く力を身につける。	具体的なトピックについて、個人やグループで発表、討論、ディベートなどを行い、自らの考えを深める。	発表形式やディベートを実施し、生徒の参加意識を高めることができたが、相互に討論を交わすところまでは至らなかった。	B	学習した内容を自らの考えにまで発展させ、異なる意見をもつ人との討論を通じて新たな気づきを得られるような授業を目指したい。
	数学 高等学校数学の基礎となる内容から高度な内容まで、幅広く取り扱い、思考力を鍛える。	演習時間を多く取り入れ、自分が手を動かすことで理解が深まることを実感させる。	単元の順序を入れ替えるなどして、基礎から応用までの内容を理解できた。	A	単元によっては演習の時間が十分にとれなかったため、シラバス等を工夫する必要がある。
	理科 幅広い科学の知識を身につけ、科学的な思考法を習得し、生活に関わる現象が科学と密接に関連していることを理解する。	体験的な実験、観察を含む学習を通じて、実際に生じている現象と科学的知識が関連していることを示しながら展開する。	実験・観察を通じて指導要録に基づく講義内容を実際の体験としてとらえさせようで知識を深めさせた。	A	知識を実体験と繋げ、より理解を深めようで、背後の科学的法則性を探る意識を持たせるための教材の選択が課題となる。
保健体育 身体活動を通じ、公正、協力、責任など基本的な態度を身に付ける。健康安全について、各自が関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢を育てる。	運動の合理的な実践を通じて、体力の向上と真のスポーツマンシップを身に付ける。BLS等を通じ、健康や安全に対する関心を高める。	積極的に身体活動を行っており、取組み目標は概ね達成できた。BLSに関して、真面目に取り組む、全員横浜市防火防災協会からの認定証を取得した。生徒の好奇心が旺盛で、積極的に取り組む姿勢が印象的だった。高度な授業内容を展開でき、充実していた。	A	数件の怪我（骨折など）が発生し、さらなる安全面への配慮を行う必要がある。生徒により体力・技能の差が激しいので、より個にフォーカスした指導も工夫して行きたい。人数と施設・場所を考慮した配置が欲しい。	

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
必修科目	芸術 豊かな表現力と幅広い知識、加えて鑑賞する能力を伸ばす。	基礎的な表現方法を講義、実習において会得する。さらに芸術作品を鑑賞することにより感性を高める。	生徒の芸術に対する関心や創作意欲を高めるという点において、概ね目標は達成できた。	A	引き続き芸術への理解が深まるよう創意工夫し、高いレベルの表現を追求させたい。
	外国語 英語 4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく育成することはもちろん、多言語・多文化への理解を育む。 第二外国語 基本的な文法、発音から始めて、最終的には読む・書く・聞く・話すの4技能の総合力をつけさせる。それぞれの言語を通じて他文化への理解を深める。	語彙・文法事項の習得に加え、ペアワークや発表活動を通じて、対話や表現の技術を高める機会を提供する。 2年次にドイツ語・フランス語・中国語の3科目を設置する。全くの初心者からのスタートであることを前提に始め、3年次での学習にも繋げる。	4技能のバランスを意識した授業を行い、概ね目標を達成できた。 生徒のレベル差が見られる部分もあったが、4技能を意識したバランスの良い授業を展開することができた。	B B	良質なインプット、生徒1人あたりのアウトプット、教員から生徒へのフィードバックをさらに増やすべく、工夫を重ねる。 ①定期的な発音のチェックを行い、忘れないようにさせる。 ②リスニング練習の回数を増やす。 ③実践の機会をさらに増やす。
	家庭 独り立ちに必要な知識と技術の習得を図り、持続可能な生活を営む態度を育む。	講義内容と実習（調理・裁縫等）を関連付けて行い、体験を通じた理解を促す。	概ね達成できたが、習熟度や理解に差があった。	B	成年年齢の引き下げを意識して、自立のために必要な知識・技術の習得をより促す必要がある。
	情報 SNSや著作物の利用において、生徒が適切に行動できるように、知識の伝達と定着に努める。	概念的な理解にとどまらないよう、生徒に身近な実例を示すなどの工夫を行う。	社会の中で話題となった不適切な事例を扱うことで、生徒に関心が生まれ、善悪の正しい判断ができつつある。	B	社会では不適切な事例が多く、次々と新しい事が起こって順次忘れ去られてしまうため、常に新しい話題を提供する必要がある。
卒業研究	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で分類を設定し、生徒の希望に応じた選択ができるようにしている。生徒各人が論理的思考を養い、表現力を身につけ、大学へ進学するための準備をさせる。 最終的に48講座を設置した。その内訳は、外国語系9講座、社会系12講座、数学系9講座、理科系4講座、保健・体育系5講座、国語系5講座、芸術系（音楽・美術）2講座、情報・コンピュータ系1講座、家庭・生活系1講座である。 優秀な卒業研究として10作品を選出した。 				
	国語 生徒が自身のテーマを発見し、深められるよう、適切な指導、助言を行う。あわせて、論文の執筆に必要な知識および表現力を身につけさせる。	参考となる図書や学術雑誌の紹介のほか、必要に応じて輪読、発表、実地研修、講師の招聘などを行い、論文執筆の動機付けを促す。	各担当者とも、具体的な方策を念頭に、適切な指導とさまざまな工夫を行って、成果を上げることができた。	A	今年度の成果を踏まえ、引き続き、テーマの発見から論文執筆に到るまでの動機付けを主要な課題とする。受講人数が相対的に多い場合にも、課題を達成することを目指す。
	社会 自らの興味関心に基づき研究テーマを定め、先行研究や史資料を収集し、最終的に12,000字程度の論文と言う形で研究成果をまとめる。	各担当教員の指導のもとでアカデミック・ライティングなどの基礎的な部分を学びつつ、発表・議論することで研究を進める。	「論文」という形で自らの考えを示すことができた生徒もいる一方で、先行研究のまとめで終わってしまう生徒も少なからず存在した。	B	いかにして「先行研究」という枠組みを超える発想を生み出すかが課題となるため、授業内での議論を積極的に実施し、生徒が自身の研究テーマ以外についても関心を高める必要がある。
	数学 枚数・字数制限は設けられないが、論文を提出させる。基礎的・応用的な知識を身につけ、論文を作成する力を育む。	各自のテーマごとに課題を見つけ出し、より良い解決策を考察する。	専門書を読み込み、それを要約してプレゼンテーションする力が身についた。	A	きめ細かい指導をするために、少人数の講座を多く設定することが望まれる。
	理科 理科の各分野からテーマを設定して探究する。学習、実験、調査を通じて研究方法や科学的思考法を学び、体験的に科学を理解する。	講義や実習を配し、実験観察・観測・文献検索・発表などを通して、科学研究の方法を経験させ探究活動を行わせる。	設定したテーマに沿ってそれまでの学習内容を活かしながら、実験・観察を通じて得たデータの分析や考察を行った。	A	生徒が希望する全てのテーマに対応できる環境を整えることは難しいが、内容を高めるためにも引き続き努力したい。

保健体育 12,000字程度の論文を提出させる。各自の興味関心に応じた研究テーマについて、主体的に研究させる。	基本的な講義を行った後、情報収集をさせる。中間発表のようなプレゼンテーションの機会を設ける。	履修者全員が情報収集、論点整理を経て研究論文を作成できた。	A	論点を絞る訓練の為にグループワーク、グループディスカッションを多く取り入れる。もう少し幅広くテーマを受け付けられるように準備する。
芸術 興味ある分野について自主的に調査・考察させ、10,000～12,000字の論文を書かせる。	対象とする時代や作家についての資料を集め、調べた内容を論文としてまとめる。場合に応じて創作を伴う。	多くの生徒が目標に向けて、努力することができた。	A	限られた期間で目標を達成するために、生徒各自との対話を重視し、引き続き細やかなサポートを行いたい。
外国語 ことばをめぐる様々な事象につき、生徒の興味関心を高め、理解を深める。	文芸作品等を通じて外国語に慣れ親しむ。母語である日本語についてもさらなる理解を促す。	教員のアドバイスを受けながら、多くの生徒が自らテーマを定め、それに向かって研究を進め、論文を書きあげることができた。しかし、中には計画的に研究を進められずに、提出がぎりぎりになる者もみられた。	B	生徒みずから計画的に研究を進められるよう促し、また、全員が余裕をもって論文提出できるように、さらに細かい指導を心掛けたい。
家庭 家庭生活の中から関心のあるテーマを設定させる。研究成果を高めるための方法、論文の書き方について理解させる。	先行研究に触れることにより様々な研究方法があることを理解させ、個々の研究が適切な方法で行えるよう指導する。	各自、テーマに適した研究方法を考え、実行し、論文にまとめることができた。	A	より研究成果を高めるために、テーマの設定、研究方法、研究計画について再検討する。
情報 研究テーマを適切に設定し、あわせて、研究成果を挙げるための方法を身につけさせる。	研究自体の概念、学術論文の探索方法などを理解させるとともに、適宜発表の場を設けることにより、積極的な取り組みを促しつつ、研究法の定着を図る。	概ね達成されたが、学術論文の探索については個人差が大きかった。	B	学術論文の探し方について、実習を取り入れるなどして定着を図りたい。
<p>・受講した生徒にアンケートを実施した結果、取り組みに対する満足度（数字が大きい方が満足度が高い）は5…37%、4…44%、3…15%、2…5%、1…0.5%であった。</p> <p>・生徒が卒業研究に取り組んでよかったと感じた点（複数回答可）は、「今まで知らなかったことを知ることができた」が最も多く61%、次に「論文の書き方を学ぶことができた」59%、「達成感があった」50%、となっていた。</p> <p>・生徒が卒業研究に取り組んで、こうすればよかったと思うこと（複数回答可）は、「計画的に研究を進めればよかった」が最も多く49%、次に「もっと内容を掘り下げればよかった」46%、「参考文献・データを増やせばよかった」42%となっていた。</p>				

特別教育活動

クラブ活動 部活動を通じて、生徒の健全な心身の育成を目指す。活動中の安全管理を徹底する。 生徒会 各クラブへの経済的支援を充実させる。球技大会・学部説明会等の行事の円滑な運営に努める。卒業生とのつながりを大切にし、交流を深める。他校の生徒会との連携を無理のない範囲で継続する。	クラブ活動 キャプテン・マネージャー会議や監督・コーチの会等を通じて、安全管理に関する講習会を実施する。全国大会出場支援募金を行い、その経済的負担を補う。 生徒会 生徒会役員間の連携を図り、業務に支障がないよう努める。招待会議を通じて、他校生徒会役員と積極的に交流を図る。	クラブ活動 熱中症・感染症対策について、各会議で資料を配付し、その対策を図った。監督・コーチに対してBLS講習会を実施した。全国大会へ出場するクラブへ旅費支援を行った。 生徒会 他校生徒会役員へ招待会議への参加を呼びかけ、150名余りの参加があった。卒業生による基調講演の後、多くの議題について積極的に議論を交わした。	A	クラブ活動 部活動の指導者に対して、継続的にBLS講習会を実施する。けが・事故等の防止策の資料を配付する。基本的な感染症対策の指導を徹底する。 生徒会 学校行事の運営について、役員間はもちろん、関係各所との連携を意識し、より円滑な運営を目指す。同窓会との連絡を密にし、よりよい関係が築けるよう、交流の機会を増やす。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
安全管理					
設備	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員相互の協力を得て、定期的に教育施設・設備の保守・点検を行い、事故防止や安全対策を図る。 ・生徒の動線に目を配りながら、安全面に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に各教育施設の安全点検を行う。必要に応じて設備の修繕・改善を行う。 ・生徒会役員の協力を得ながら、生徒の目を通じて危険個所の点検を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部室棟を中心に大掃除、廃棄物処理、並びに点検を実施し、危険箇所の発見に努めた。 ・日吉協育棟のピックアップチャェールが脱落したが、その都度速やかに対処した。 ・第一校舎中央のトイレを改修予定であったができなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育施設・設備の保守・点検を定期的に継続・実施する。 ・教職員の相互の連携を図り、今後予測される教育施設・設備の修理・改善を積極的に行う。 ・生徒会役員の協力を得ながら、生徒の目を通じての危険個所の発見を継続して行う。
保健衛生	<p>環境衛生調査を継続して行い、生徒の快適な学校生活のための環境を整備する。</p> <p>保健衛生に関する情報を生徒に適宜提供する。</p> <p>インフルエンザ対策を細かく実施する。</p>	<p>年2回、環境衛生調査を継続して実施する。</p> <p>関係スタッフと相互に協力し、迅速に教室環境の充実を図る。</p> <p>インフルエンザを罹患した生徒の登校時に、登校禁止期間のチェックを厳格に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室の二酸化炭素濃度が高い傾向があった。 ・保護者向けの講演会の実施、精巣捻転の啓蒙を図るプリントを配付した。 ・インフルエンザ等学校感染症に罹患した生徒の登校時に、校医が登校禁止期間の確認と体調の確認を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・環境調査を引き続き実施している。 ・保健衛生に関する講演会を実施して、情報発信していく。 ・インフルエンザ対策をさらに細かく実施していく。 ・新型コロナウイルス感染症への対応を検討する。
危機管理	<p>生徒・教職員が安全で安心して学校生活を送ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育 ・安全管理 ・組織活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施。 ・生徒・教職員対象のBLS講習の実施。 ・緊急時一斉連絡システムの継続。 ・熱中症対策の啓蒙、啓発プリントの配付。 ・9月に備品の補充点検の実施。 	<p>4月に学校全体で避難訓練を実施した。</p> <p>生徒対象のBLS講習を実施した。</p> <p>監督・コーチに対するBLS講習を実施した。</p> <p>緊急時一斉連絡システムを継続し、学級閉鎖などの連絡に活用した。</p> <p>熱中症に関する啓発プリントを配付した。</p>	A	<p>非常時・緊急時のマニュアルを整備する。</p> <p>非常時・緊急時の備品の補充を継続的に行い、その情報の共有を行う。</p>
運営					
図書	<p>授業や卒業研究の支援について、従来の図書を中心とした連携に加え、データベースの利用を促進する。また、図書館システムの安定運用のため、一貫教育校全体で各種の連携を行う。</p>	<p>既存データベース2種と2018年度新規導入3種の評価を行い、2019年度には更なる利用促進に努める。9月に、図書館システムのリプレイスを行う。</p>	<p>2018年度から導入したデータベースは、3年生の卒業研究等で活用された。図書館システムのリプレイスを終え、業務用PCの環境を整えた。</p>	A	<p>国際化への取り組みとして、外国語科教員と協力して外国図書（バイリンガル含む）の選書を強化する。また、2019年度から再開した「卒業研究セミナー」で論文の書き方の講習を行うなど、授業支援を促進する。</p>
学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施状況					
いじめ防止対策	<p>生徒の声を受け止め、しっかりと向き合う。迅速に、組織的に対応する。</p> <p>保護者、関係機関との連携を図る。</p> <p>教員向け講座を実施し、教員の対応のスキルアップを図る。</p>	<p>担任による個人面談、保護者との面談を実施する。</p> <p>ホームルーム、部活動を通じて望ましい人間関係の構築を進める。</p> <p>いじめ事案に対し、いじめ防止対策委員会を核とした対応を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者との面談を必要に応じて実施した。 ・保護者、生徒に相談室の積極的利用を促し、相談室と連携して対応した。 ・年間4回教員向け講座を開催し、教育相談のスキルアップを図った。 	B	<p>早期発見のための取り組みのさらなる推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上のいじめへの対応を検討する。 ・教員向け講座を継続しスキルアップを図る。